



千葉あいご

二〇一四年十三月号



これから社会福祉法人の 方向性を考える

講師

千葉県知的障害者福祉協会会長

里見吉英 氏

千葉県知的障害者福祉法人の 方向性を考える

演題

千葉県知的障害者福祉協会会長

里見吉英 氏

挨拶・講演内容

千葉県知的障害者福祉協会が主催する「平成26年度 施設長研修会」が鴨川グランドホテルを会場に、平成26年10月20日（月）～10月21日（火）の日程で執り行われました。当団は千葉県各所より、総勢152名と多くの施設長達が会場を埋め尽くしました。

平成26年度 施設長研修会 於 鴨川グランドホテル

千葉県知的障害者福祉協会

開催の挨拶として、福祉協会と千葉県が協力して進めている袖ヶ浦福祉センターの状況報告を頂きました。

田中理事長をはじめ相馬理事、小林理事、宮代理事、中原監事と、協会

として多くの役員が携わる中で、センター利用者の方々の生活を第一に考え、8月まで実施した協会会員施設による職員派遣の報告を交え、今後も支えていく意向の表明がされました。また、昨今注目される社会福祉法人のあり方として、一部報道にも載せられている社会福祉法人改革の現状にも触れられました。株式会社が福祉事業に参入する中、社会的責任と役割をしっかりと見据え、公共性の高い事業を果たしていく必要性が求められていることを述べられました。

講演では、千葉県知的障害者福祉協会による、「第五次千葉県障害者計画」に関する意見書の説明がありました。国における施設入所者の地域移行と定員削減の数値目標の中で、千葉県の

第58号 (二〇一四年十一月号)
発行日 平成二十六(一〇一四)年十一月二十日
発行者 里見吉英
編集者 畠山正昭・浅川和之・大橋宣彦
発行所 千葉県知的障害者福祉協会
(本部) 千葉市中央区中央四一四一十 友美ビル二一二B
TEL 〇四三(一一四)五七二二
HP <http://www.chibaciteki.com/>
船橋市金堀町四九九一 大久保学園内
TEL 〇四七(四五七)二四六一
(事務局)

上記電話の通 中村 敦久
九曜会たかね園管理者辰巳 鶴治
TEL 〇四三(一一四)五七二二
HP <http://www.chibaciteki.com/>
船橋市金堀町四九九一 大久保学園内
TEL 〇四七(四五七)二四六一
(事務局)

次

- 平成26年度施設長研修会
九曜会たかね園管理者辰巳 鶴治
TEL 〇四三(一一四)五七二二
HP <http://www.chibaciteki.com/>
船橋市金堀町四九九一 大久保学園内
TEL 〇四七(四五七)二四六一
(事務局)
- 支援スタッフ部会コーナー
- 中堅職員研修会報告
- 福利厚生事業
- 新規事業所紹介
- 我が施設の自慢・アピールポイント⑩
- 千葉知協トピックス
- 事務局だより



講師

日本知的障害者福祉協会
社会福祉法人のあり方に関する特別委員会委員長

久木元 司氏

演題

これから社会福祉法人の
方向性を考える

計画の策定にあたっては、千葉県における障害児入所施設での加齢児の問題、入所待機者が増加して常に満床状況の入所施設の状況を理解した上で計画の策定を進めていたとき、障害を持つ人たちの地域生活が整えられるための計画にしてほしいとの説明をされました。

また、来年度に控えている報酬単価改正の話がありました。調査の結果、障害福祉事業における収益率が平均9・6%となつており、今後の分析と検討が進むとのことです。さらに、就労移行事業所での調査では、30%以上の就労率の達成と0%だつた事業所が、それぞれ3割と事業所間での差が大きいことが語されました。最後に、制度改革の過渡期を迎える社会福祉法人には厳しい運営環境となることが予想されます。が、会員施設の連携を密にして、乗り越えていきましょうとの言葉で締めくくりました。

このテーマについて、全国的な議論を行なっている、久木元氏より社会福祉法人を取り巻く現状と、今後の方向性に関する説明を頂きました。はじめに現在加入している退職共済の問題に触れられました。介護保険事業所と同様、障害と保育の事業所も、平成27年度から国と同様の財源の関与をなくす方向であることが話され

ました。また、来年度に実施される報酬改定では、注目される社会福祉法人の内部留保（余裕財産）の額と一般企業との収益率の差に絡み、介護保険事業所においてはマイナス6%という話もあるとの内容でした。社会福祉業界における営利法人の参入で介護事業所では、営利法人の割合が僅かながらも社会福祉法人を上回っています。おり、イコールフットティング（公平な競争条件と優遇措置の廃止）の側面からも是正を求めるべき動きとのことです。

そもそも社会福祉法人は、低所得者や障害者の生活全般を支え、本来、国の責務で行うべき事業を実施し、民間事業者が参入しないような採算性の低い地域においても、その役割を担つてきました。公金の支出を受けている点でも、解散時に残余財産を国庫帰属等にすることや、資金使途制限、行政監査・監督、法人組織などにおいて、厳しい規制の中での施設運営をしていく現状にあります。実際に過去6年間で発生した約500件の介護保険事業所の指定取り消し処分の割合でも、約70%が営利法人で、社会福祉法人は僅かに約6%となつていているとの事です。

また、先般問題視された、社会福祉法人の内部留保（余裕財産）における点では、数字だけが独り歩きをしました。現状では、施設整備費の削減等により、将来必要となる大規模な新築の経費積み立てや、グループホームの建設で、地域移行についても多額のコストがかかることがありますから、一定の資金は必要で、現に知的障害分野では、非常に高い移行率を達成していることは着目するべきとの見解でした。そういった意味でも、中長期ビジョンに則った予算の明確化と情報の透明性が重要なことでした。

他方、社会福祉法人の在り方に関する特別委員会において、様々な社会的批判に応えるため、小規模法人への配慮を踏まえた組織改革を検討しており、注目される法人合併では、理念が共

有できていないと困難で、最近では、協働化や社団型など法人同士が、ゆるやかに一体化して運営する仕組みが検討されているとの事でした。様々な制度改革が行われようとしている現状のまとめとして、社会福祉法人の社会的使命や役割を明確にするとともに、運営や経営における透明性を高め、支援サービスの質の向上に努め、その上で、第三者評価の実施など、客観的な視点により、社会的に説明できる仕組みの導入に取り組むことが不可欠との事で講演を終えられました。

講演後の久木元氏と里見氏の対談では、税制改革による今後の方向性について、固定資産税や事業税の課税においては未だ不明な点も多く、今後の与党税制調査会等の議論を注視していく必要がありますとの見解になりました。イコールフットティングの考え方は、経済界からの声であり、社会福祉法人と営利法人で、様々な条件が異なる中、すべてを同じ土俵にあげることの危うさが語られました。



行政
説明

千葉県の障害者施策と課題について ～平成27年度予算を中心として～

講師
千葉県健康福祉部障害福祉課副参事

山之内 秀好 氏



成27年度予算について、今後内容が決まっていくとのことで、今回の説明では「第五次千葉県障害者計画」(平成27年度から平成29年度)の策定と現計画の説明

となりました。次期計画は12月に県内各地でフォーラムを開催して、意見募集を進め、年度内に計画を取りまとめるとのことでした。現計画の進捗状況の説明で、グループホーム等の建築基準法上の取扱いに係る検討については、国に対し過度に厳格な対応とならないよう、調整をしていくとのことで、スプリンクラーの設置義務においては、27年4月から面積要件の撤廃により、避難に困難があるケースは義務的設置になることから、県では補助予算を計上しているとの事でした。

障害者虐待防止対策支援事業では、千葉県自立支援協議会権利擁護専門部会の委員の派遣による研修を行つてあるとの事です。また、袖ヶ浦福祉センターの検証を受け、事前に連絡をして事業所の監査等に行くのではなく、抜き打ちで実施する方が有効ではないかとの意見を受け、今後は実質性の高い監査・指導を行う意向を述べられました。

障害特性に配慮した支援の充実の中で、要望の多く寄せられていた、重度心身障害者(児)医療給付改善事業において、平成27年8月から

実施することとなり、一定の所得以下の世帯の方を除き、定額の負担を負う事で、医療サービスの現物給付が受けられるようになります。詳細の制度設計を今後詰めていく必要があり、固まり次第、示していきたいとの事でした。

避できないものの、県内においてセンターは、支援の困難性が高い利用者が最後に行きつく終着駅になつており、第2寮の元職員を隔離、孤立させ、このような状況を招いたことは、千葉県内の全施設の責任ではないかと話されました。

このような事件を繰り返さないための対応として、①規模の縮小と同機能を持つ民間での拠点施設の創設②養育園と更生園の分離と自主事業の移譲をすすめ施設機能の明確化を図る③生活環境の開放化と個別化を図るために行動障害の方々への建物環境を整備④積極的な外部交流の実施が挙げられました。さらに支援者への支援の必要性、利用者個人の立場に立てる人の存在、終着駅をやめるといった考え方を述べられました。

袖ヶ浦福祉センター虐待事件の第三者検証から 袖ヶ浦福祉センター事件の本質

講師
千葉県社会福祉事業団問題等第三者検証委員会元座長
弁護士 佐藤 彰一 氏

2日目は、袖ヶ浦福祉センター虐待事件の発生に伴い、外部の有識者による徹底調査と全容究明のために、

平成26年1月に設置された「千葉県社会福祉事業団問題等第三者検証委員会」(現在は改編され「千葉県袖ヶ浦福祉センター見直し進捗管理委員会」)元座長の佐藤彰一氏による講演がありました。



最初に平成25年11月の事件当日の詳細が語られ、検証委員会による検証内容の説明がありました。この事件の原因と背景の中で、最初にセンターの職員配置により、支援の困難性が高い利用者のいる他寮に、経験豊富な職員が偏つたことが挙げられました。これにより、第2寮での支援の質が低下し、閉鎖性が高まり、管理職員の指導不足も重なったことで、現場職員の孤立感と視野狭窄に陥り、問題行動ばかりに着目し、利用者本位の支援とはほど遠いものに至つてしまつたとの見解が述べられました。

した。

社会福祉法人 九曜会たかね園 管理者

辰 己 陽 治

中堅職員研修会報告

●中堅職員研修会に参加して

平成26年9月25日（木）26日（金）の2日間に渡り、千葉県知的障害者福祉協会主催の『中堅職員研修会』がサンライズ九十九里にて開催されました。

昨年末の袖ヶ浦福祉センター虐待事件から学び、利用者様を守り、よりよい支援をしていく為に中堅職員としてなすべきことを講演やグループ討議を通して学びました。



講演Ⅰの「組織力を見直す」では虐待事件の原因として支援体制や法人理念の把握が出来ていない事、職員のスキル不足、施設・職員環境が良くないなど多くの原因が考察されました。これは自分の施設でも起こりうることであり、組織の一員として中堅職員の役割は大きく、管理者と現場の職員を繋ぐ大切なポジションであることを改めて学ぶことが出来ました。

講演Ⅳの「障害者虐待の実際とこれから」では、虐待には当らないが不適切な支援を行なっている場合があるのではないかという事例をグループで話し合いました。虐待・権利侵害に繋がる支援は、徹底されていない呼称や職員のスキル不足、業務効率を優先することにより利

用者様に迷惑をかけるなど多く挙がりました。この不適切な支援の対策として中堅職員がなすべきこととは職員間でしっかりとコミュニケーションを取り、指摘・助言し合える関係を築く事、マニュアルや個別支援計画表を見直し、自分が率先して利用者様に寄り添った支援をする事が大切であるということです。

この2日間の研修は内容の濃い、とても良い研修でした。講師・スタッフの方々や研修に出で頂いた職場の皆様に感謝いたします。学んだ多くの事を活かして中堅職員として利用者様・法人の為に頑張っていきたいと思います。

社会福祉法人 翡翠会 山武みどり学園

斎 藤 健 太

●活発なグループ討議で意義ある研修会

9月25日～26日の2日間、サンライズ九十九里にて開催された、

千葉県知的障害者福祉協会主催の平成26年度中堅職員研修会に参加させていただきました。

初日は、社会福祉法人まつど育成会、総括施設長早坂裕実子先生の講演「組織力を見直す」、千葉県発達障害者支援センター臨床心理士田熊立先生の講演『自閉症特性の理解と行動障

害への支援』、二日目には、千葉県知的障害者福祉協会事務局長千日清先生より、千葉県知的障害者福祉協会の組織及び活動についてのご説明をいただいた後、和泉短期大学児童福祉学科教授鈴木敏彦先生の講義『障害者虐待の実際とこれから』があり、その内容を踏まえたグループ討議を行いました。

早坂裕実子・鈴木敏彦先生のご講演は、先般の袖ヶ浦福祉センター虐待事件を詳細に調査されたうえでの報告、および提案でした。虐待はどの職場でも起こりうるものであり、虐待を防止するためには、まず組織の在り方を見直していくべきである、ということを痛感しました。虐待・権利侵害事件を誘発する負の体質「相互無批判的体質」「独善的体質」など、自分の所属組織はどうであろうか、と真剣に考える契機をいただきました。また、「なぜ不適切ケアは起きるのか?」をテーマにしたグループ討議も他施設の職員の方との貴重な意見交換の場となりました。「不適切ケア撲滅のための中堅職員行動指針三か条 1. 心のゆとり 2. 自分が見本となる 3. 意見を言い合える環境をつくる」を日々の現場でも実践できれば、この研修参加も意義のあるものとなると思います。

就職するなら明朗塾

中 平 裕 子



福利厚生事業

●第13回施設職員交流ゴルフ大会

平成26年8月28日大栄カントリー俱乐部にて、第13回となる施設職員交流ゴルフ大会が開催され、今回は70名もの参加をしていただきました。この職員交流ゴルフ大会は例年同じ時期に開催しており、当日の暑さを心配していただきました。しかし、当日は朝からの雨……しかもスタートしてからは更に雨が強くなる始末。コースではバンカーに水が溜まり、グリーンでもボールが転がると水しぶき上がる位のコンディション。したがって今年は高度な技術と集中力が求められました。そんな中、参加された皆さんが最後までラウンドしてくれた事に感謝します。ありがとうございました。

さて、そんな悪天候であった今年の成績は、昨年準優勝であつた袖ヶ浦更生園の井上隆憲氏がこのコンディションにもかかわらず見事に優勝、準優勝に吉沢学園の武内博文氏、3位は菜の花会の與那嶺泰雄氏が受賞となりました。ベスグロの男性は初参加のビーアンビシャス加瀬邦雄氏、女性が昨年に続き菜の花会の岩立きよ子氏でした。重ねて賞品などの協賛をいただいた皆さんに心より感謝申し上げます。

結果発表

優勝	袖ヶ浦更生園	井上 隆憲
準優勝	吉沢学園	武内 博文
3位	菜の花会	與那嶺泰雄
ベスグロ	ビーアンビシャス	加瀬 邦雄
	菜の花会	岩立きよ子

●ふれあい広場フリーマーケット



平成26年10月4日に、船橋競馬場にて「ふれあい広場フリーマーケット」が開催。当日は天候にも恵まれ、例年より2事業所が増え12事業所に出店していただきました。早朝より長時間であります。出店していただいた方に感謝いたします。

力いたいた事に感謝いたしました。また、ご出店とご協力いたいた事に感謝いたしました。



あともう少し！（大久保学園チーム）

3期連続の準優勝中のふる里学舎を接戦で勝利し、決勝では王者みずほ学園を追い詰める試合展開でしたが、あともう少しのところで勝利できませんでした。しかし、試合はみずほ学園を研究していた様子で、随所に頭脳的なプレーの目立つ試合展開であり今後も期待が持てるチームでした。

チーム結果の主なものは次の通り

優勝	みずほ学園
準優勝	大久保学園
福利用生委員長賞	八日市場学園
県大会出場チーム	ふる里学舎松香園

大会7連覇達成！（みずほ学園チーム）

平成26年11月19日千葉ポートアリーナにおいて、施設職員交流バレー・ボーラー県大会が開催され、今年も各ブロックの代表16チームで熱戦が繰り広げられました。

委員長 上総喜望の郷 中村敏久

さすがのみずほ学園も苦戦をしておりました。特に決勝では大久保学園が昨年の準優勝チームふる里学舎を破った勢いのままぶつかり、試合途中ではみずほ学園をリードする展開となり、誰もが勝負あつたかと思われましたが、やはり大会6連覇中のみずほ学園は勝負強く、見事大会7連覇達成となりました。

来年以降は更に「打倒みずほ学園」に闘志を燃やす他チームを相手に連覇できるかが注目です。強く、見事大会7連覇達成となりました。

支援スタッフ部会コーナー

●●研修会報告●●

市原・安房・君津ブロック
ブロック長 阿部桂佑

去る8月26日(火)、千葉県総合スポーツセンタースポーツ科学センター第一研修室にて研修会を開催しました。昨年8月に開催された研修会で、会場の定員を超える多くの方の参加をいただき、かつ好評であったことから再度、一般社団法人 こども未来共生会 理事長 中島 展様を講師にお迎えし「発達障害の理解と支援について」をテーマにご講演頂きました。

中島様は、入所施設の支援員を経験されており、現場の視点から発達障害について基本的知識を、現場で体験されたこと等、ユーモアを織り交ぜ、懇切丁寧にお話し下さい、重くなりがちな内容も事細かにわかりやすく、大変気づきのあるものでした。さらに、ベストセラーとなつた本、「自閉症の僕が飛びはねる理由」の著者、東田 直樹様の生活を追った動画を通じ、当事者の方がどんな思いを持っておられるのか、どんな生きづらさを抱えているのかを学ばせて頂きました。参加された皆さんも日常の支援や接している利用者の方のことを描きなが

ら、共感できたと感じております。研修後半には、グループ討議として、自身が所属する各事業所においての困難事例について話し合いの時間がもたれ、各グループが時間を忘れ、時間ぎりぎりまで討議が続いていたことが、強く印象に残っています。

それぞれの施設において、利用者様中心の支援や障害特性に合わせた支援を実現するため、専門知識や専門技術を身につけられるよう、全職員が共通認識をもって相互の連携を図り、日々、対応にあたっていることと思います。この研修会では、自施設だけでなく様々な施設の方々が参加されております。職員間の交流を通じ、横のつながりを広げられることで、多くの支援の課題について普段とは違った視点からのアプローチや、対応のスキルを習得するうえでのきっかけになれば幸いです。

今後も全体としての支援スタッフ部会の活動だけでなく各ブロックごとの活動や研修会を予定しております。多くの支援者が興味をもって参加していただけるような研修であったり、お互い相談しあえるような交流の場が持てるような活動を企画していくよう努めてまいりますので、今後とも支援スタッフ部会の活動に、ご理解とご協力をよろしくお願ひいたします。

第11回 自立支援セミナー2015—豊かな生活をめざして— 開催のお知らせ

11回目を迎えた今回の「自立支援セミナー」は、—豊かな生活をめざして—と題し福祉施策の方向性と課題、とりわけ個別支援の重要性と年を重ねた本人とその家族に視点を置き、関係者が共通した方向性を確認することができるようここに集うこといたしました。

安心できる生活創り、成年後見を含めた親の思い、政策的側面とも併せて様々なお立場からご意見を戴くことができるよう企画いたしました。

●日 時	平成27年1月24日(土) 13時30分～16時50分
●会 場	京葉銀行文化プラザ 音楽ホール 千葉市中央区富士見1-3-2
●次 第	13時00分 開場受付 13時30分 開会挨拶・福祉情報 会長 里見 吉英 14時00分 誰もが暮らしやすい千葉県を目指して 一第五次障害者計画を語る— 千葉県健康福祉部障害福祉課長 古屋 勝史 氏 15時00分 ○シンポジウム 本人がいつまでも安心して暮らせる生活を 一成年後見の取組みと課題— ○シンポジスト しもふさ学園保護者会 元会長 篠島 治男 氏 NPO法人かずさ障害者支援センター セイバの木 会長 岡部 直樹 氏 NPO法人しぐなるあいす 理事 泉 幸江 氏 ○コーディネーター 千葉県知的障害者福祉協会権利擁護委員長 早坂裕実子 氏 ○助言者 千葉県健康福祉部障害福祉課長 古屋 勝史 氏 16時50分 閉会

第42回 手をつなぐ作品展

(北部地区)

場 所 イオンモール八千代緑が丘
日 程 2月21日(土)～22日(日)
販売時間 9:00～20:00
幹事施設 大久保学園

(南部地区)

場 所 イオンモール富津
日 程 2月19日(木)～22日(日)
販売時間 19日 12:00～20:00
20、21日 9:00～20:00
22日 9:00～19:00
幹事施設 ふる里学舎

(中部地区)

場 所 イオン鎌取
日 程 5月下旬
販売時間 未定
幹事施設 中野学園

NPO法人めぐみの家

(印西市)

「自分らしく暮らしたい」



工房マナ

NPO法人めぐみの家は、知的に障害があるとされた方々が、社会の一員として自分らしく暮らす形とはどのような形なのかを考え続け実現することを活動の中心とし、2003年にNPO法人めぐみの家を立ち上げ、2004年にグループホーム「ベイトレハイム」を開所、菓子製造営業の場として「工房マナ」を運営開始しました。2012年には「工房マナ」を生活介護事業に移行し現在に至ります。ホームを利用する方は7名、生活介護を利用されている方は13名と小規模な事業所ではありますが、地域に点在し、暮らしや活動内容が近隣の方々に理解しやすく、互いに交流がしやすいという利点もあります。2012年には特定相談支援事業所エマオを開設。今年3月には特定相談支援事業所も開設しました。



施設長 小林 晓美
千葉県知的障害者福祉協会の一員として、少しずつ歩み続けてまいりますので、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

工房マナで作るパンは、設立当初から研究を重ねた独自製法。地域の方々からも好評をいただいています。

支援スタッフから見た!

わが施設の自慢・アピールポイント⑯

平成20年度から16回にわたり49の“チ自慢”をご紹介してきましたこのコーナー。今年最後は2つの“チ自慢”です!

夷隅・長生B 長生厚生園

ひとりひとりの幸せのために、共にあゆむ

社会福祉法人 児童養護会

長生厚生園 choseikoseien

昭和59年12月に「長生厚生園」は知的障害者の支援を目的として設立しました。現在、障害者支援施設（施設入所支援事業50名・生活介護事業70名・短期入所併設型1名・日中一時支援事業）ともばらユーカリホーム（外部サービス利用型共同生活援助事業）を運営しております。

当園では、法人理念である「ひとりひとりの幸せのために、共にあゆむ」を掲げ、利用者支援に取り組んでおります。

施設入所の利用者平均年齢は44.9歳です。最年少が18歳、最年長が65歳と幅広く、若い利用者さんの活動と高齢の利用者さんの日中等の活動の共存を模索しています。

利用者個別のニーズを元に、日中の活動に加えて外出やイベントなどを企画していますが、それぞれの日常生活支援度合いの差と体力的な問題等合わせて全体を組み立てる難しさ。増える通院や服薬支援。時間の経過とともに課題が増えしていく一方のような気がしてなりません。乗り越えなければいけない壁はたくさんあると考えています。施設を利用する人と施設で働く人が一緒に未来へ歩んでいける環境を目指しています。

支援課長 樋田 学

千葉B でい・さくさべ

住宅街の真ん中で



でい・さくさべは、千葉都市モノレール作草部駅から徒歩3分、住宅街の中にあります。地域の皆様には、施設から出る作業の音など、ご迷惑をおかけすることもありますが、概ね理解をいただき運営しております。地域の皆様にご理解いただけではなく、施設ができる地域貢献も目指しています。

日中活動においては、作草部地域の清掃活動をする「地域清掃」を実施しています。普段はボランティアを受ける立場になりますが、この活動では利用者さんが地域のためにできることを目的の一つとして、毎日活動しています。「今日も頑張ってね」「毎日ありがとう」近隣の方々から声をかけてもらうのも、活動のモチベーションに繋がっています。

並木 雅裕

千葉知協トピックス

千葉県障害者スポーツ大会開催される



朝日新聞社杯争奪第29回千葉県ゆうあいピックソフトボール選手権大会が過去最大28チームの参加により9月17・18日の両日に亘り成田市大谷津球場他で開催されました。I部は昨年の雪辱を期して臨んだチーム同士の決勝戦となり、好機を得点に結びつけた流山高等学園が、2年ぶり5回目の優勝。

II部は初出場ながら各試合大差で勝ち込んだKOY Oフェニックスが、決勝戦も大差で勝利し初出場初優勝に輝き、III部は接戦を制して勝ち進んだしいのみ園が、決勝戦でも接戦の中その力を發揮し初優勝を獲得しました。各賞は以下のとおりです。

I部	優勝	流山高等学園
II部	優勝	ふる里学舎
III部	優勝	KOYOフェニックス
	位	我孫子市福祉施設連絡会
	位	いんば学舎
	位	しいのみ園
	位	みらい工房
	位	みのり福祉会
	位	小林賞
	位	松里福祉会
	位	日吉厚生園

11月1日～3日、諫早市にある長崎県立総合運動公園をメイン会場にし、長崎市や諫早市などで第14回全国障害者スポーツ大会「長崎がんばらんば大会」が開催されました。

千葉県第3位 —全国障害者スポーツ大会「長崎がんばらんば大会」—

千葉県からは総勢105名の選手を派遣し、東京都・大阪府に次ぐ金58個、全国第3位の好成績をおさめ、知的障害関係の派遣選手では、29個の金メダルを獲得し、中島啓智（25歳自由形、50m自由形）が大会新を記録しました。また、千葉市選手団も総勢32名の選手を派遣し、7個の金メダルを獲得して、大活躍でした。



くるコンディションのなか、風を味方に付けるかどうかが成績に大きく影響した大会となりました。団体戦の成績は以下のとおりです。

アキュラシートラブル

(男子) 第1位 八日市場学園／第2位 第2ひかり学園／第3位 市原市

(女子) 第1位 富里福葉苑／第2位 ひかり学園／第3位 八日市場学園

デイスタンス団体

(男子) 第1位 八日市場学園／第2位 富里福葉苑／第3位 市原市

(女子) 第1位 富里福葉苑／第2位 市原市／第3位 八日市場学園

団体総合

(男子) 第1位 八日市場学園／第2位 富里福葉苑／第3位 市原市

(女子) 第1位 富里福葉苑／第2位 ひかり学園／第3位 八日市場学園

団体総合

第1位 富里福葉苑 第2位 八日市場学園 第3位 市原市

10月22日、千葉県総合スポーツセンター陸上競技場にて開催される予定だった「第41回手をつなぐスポーツの集い」は当日の荒天により中止となってしまいました。楽しみにしていた方が多かったと思いますが、来年の開催を楽しむにしてください！



本事業の一環として絵画の募集及び展示も行ないました。入賞作品については、9月3日～10月15日まで千葉県障害者スポーツ・レクリエーションセンターにて展示されました。

風により選手苦戦 —第21回千葉県障害者フライングディスク大会—

10月9日、千葉県総合スポーツセンター陸上競技場で「第21回千葉県障害者フライングディスク大会」が開催されました。当日は、晴れ間が時折見えましたが、午後から風が吹いて

「冬到来。暮れの慌ただしさと感染症への気配りと対策。衆院選の結果はどうか、27年が全てにおいて良い年であることを願つて。この一年間の皆様のご協力に御礼と感謝」

事務局便り 事務局長 千日 清



成田市のぞみの園 千葉健彦

編集後記 くすのき苑 大橋 宣彦
今年も残すところあとわずかになりました。インフルエンザなどに負けず、新しい年を迎えましょう。